

原発をなくせ！ 原発再稼働要請を撤回せよ！

「原発ゼロをめざす7・2緊急行動」に全国から2万人

何十年ぶりでしょうか、東京での集会、デモ行進に参加したのは。7月2日、東京の明治公園で開催された「原発ゼロをめざす7・2緊急行動」に参加してきました。

集会には福島県の人たちを中心に全国から2万人を超える人たちが集まりました。

挨拶、決意表明などで一番印象に残ったのは、福島県浪江町の酪

農家の訴えでした。東電福島原発から7キロのところまで300頭の牛を飼っていたYさん、3月17日にやむを得ず避難しました。しかし、牛たちと一緒に連れていかれませんでした。Yさんによると、牛たちはいままも餓死しないで牧場の草を食って生きていたといま

す。しかも新しいのちも生まれてくる。そんななかで東電本社に乗り込み、原発に水をかける、牛

たちの補償をと訴えて来たそうです。短い話でしたが、牛飼いととしての気持ち

がビンビンと伝わってきました。

第二部がメイン集会。

日本共産党の志位委員長、福島県の旧霊山町長などが次々と登壇し、力を込めた挨拶をしました。みんな怒っていて、原発ゼロを目指す決意が溢れていましたね。

志位委員長は挨拶のなかで、「原発事故は歴代政府と東電が引き起こした人災。総力をあげて事故の収束を図り、避難させている人たちを故郷に戻せ。住民の方々の健康を守るためにあらゆる対

策を。事故によるすべての被害に速やかに全面賠償を行え。根拠のない『安全宣言』にもとづく無責任な原発再稼働要請は撤回せよ」と訴えました。

デモ行進は新宿コースを選びました。東京でのデモ行進は、おそらく学生時代以来だと思

います。行進が進む中で、外国人や子どもも隊列に加わりました。新宿が近づくに連れて、デモ隊と歩道を歩く人たちとの間に一体感が生まれ、盛り上がっていくのがよくわかりました。こうしたデモを繰り返していくと、安保の時

にような盛り上がりをつくれそうな気がしました。

消防点検で訓練成果披露

市の消防点検が3日、市役所春日野駐車で終わりました。

注目はポンプ操作です。吉川方面隊の時はそばまで行って激励してきました。指揮者、1番員から3番員までの動きにスピードがあっ

シリーズ 上越市内の橋

第70回 西川原橋



「西川原橋」と書いて「にしかわらばし」と読みます。板倉区針から脇野田駅へ行く途中、大熊川にかかっています。すぐそばには、北陸新幹線が走っています。また、南西方向を望むと、妙高山も見えます。

橋の長さは約32メートル。竣工は2007年（平成19年）6月です。

水槽のところ「補」のゼッケンをつけている人です。水槽にズボット腕を入れ、ホースが外れなように押さえる。これも重要な役割です。

訓練ではハプニングはつきものです。突然、ホースの穴から水が吹き出る、うっかり違うバルブを開けてしまう、こんなこともありましたが、それにめげずに頑張った、それも気持ちいものでした。

24日には上越消防大会も同じ場所で開催されます。



歩き始めて五分ほど経った頃だったでしょうか。池の中央部で突然、「バシヤッ」という音がしました。一瞬、何が起きたかと思っただけですが、水面に波紋が広がっていくのを見て、魚が跳び上がったことを知りました。

七月上旬の早朝、吉川区にある長峰池をめぐる遊歩道を歩いていた時のことです。波紋の大きさからいって、跳び上がった魚はかなり大きい。たぶん鯉でしょう。空中に飛ぶ蚊でも目に入ったのでしようか。それとも、体がむずむずしたり、ストレスでも溜まったりして、たまたま跳びはねたのでしょうか。

そんなことを考えながら歩き続けているうちに、今度は遊歩道のすぐそばにある松の木が目にとまりました。高さはまだ二、三メートルしかない若い木ですが、新しい葉の近くに松ぼっくり（松傘）がいくつもついています。これまで、秋にしか見たことがなかったもので、緑色をした、生長過程にある松ぼっくりがとても新鮮でした。これからはどんなふうに変わって、傘が開いて行くのか気になります。

池の南西部、一番奥のところに湖上遊歩道があります。水中にある足場の上に厚い板を横に三枚並べ、幅が約一メートル、長さ一〇〇メートルほどの道が造られています。池の水位と板の高さがほとんど同じなので、遊歩道が湖面に浮かんでいるように見えます。

湖上遊歩道からは水面や水中などの生物を観察できます。階段を下りて、板の道を歩いた時、まず気付いたのはトンボでした。胴体が青っぽいので、コフキトンボかシオカラトンボのどちらかです。朝日が当たり始めたばかりの湖面を何匹ものトンボがすべるように飛んでいました。

板の上でしゃがむと、小さな虫がスツ、スツと動いているのが見えます。アメンボです。そして、もうひとつ、ミズスマシでしょうか、こちらは水面をぐるぐると動き回っています。目線を低くしたただけで、普段見ることのない世界が見えてきます。おもしろいものですね。

湖上遊歩道から堤（つつみ）の遊歩道へ戻ろうとしたところで、鐘の音が響いてきました。朝を知らせる光円寺の鐘の音です。池の南側の丘陵地を越えて来る、長く、ゆったりした音は、数百年も前の遠い昔から届けられた音のように聞こえます。

南側の丘陵地にはご存じのように、長峰城がありました。一六一六年（元和二年）といえますから、今からちょうど四百五十年前に牧野忠成の手によって築城され、わずか二年間で廃城となりました。謎の多い城です。このコナラやヤマザクラなどの雑木林は今、緑一色ですが、春と秋には、花と紅葉で美しい景観をつくりだします。

長峰池の南側から東側の遊歩道周辺は野の花の宝庫です。この日、出合った花だけでも、ホタルブクロ、トリアシショウマ、ヨツバヒヨドリ、オカトラノオ、ヤマアジサイなど十数種にのびりました。花どきを迎えて今、一番美しいのはホタルブクロとヤマアジサイです。カメラを持って歩くと、どうしても立ちどまってしまいます。

長峰池は東西約一キロメートル、幅二五〇メートルほどの池です。この池は縄文時代、地球的規模の温暖化により大陸の氷河が溶け出し、海水が流れ込んだ歴史があつて、かつては淡水と海水が混じり合ったところに生息するというイサザアミやケブカヒゲナガケンミジンコなどがたくさんいたといえます。池をめぐる遊歩道の長さは二・六キロ。歩くと、いろんな発見がありますよ、この池は。

原発事故に大きな関心

6月に開催した「東日本大震災被災地支援活動と6月議会についての報告会」。どこでも市政や国政に対する様々な要望が出されました。



主なものを紹介しますと、「地域事業の見直しで市道について説明があつた

が、ブルが楽々入って、事故が起きない道にしてもらいたい」「防災無線のスピーカーの設置はどういう基準で行われたのか。私らのところではまったく聞こえない」「公民館（町内会館）を利用するには階段がきつく、高齢者はたいへんだ。エレベーター設置の補助はないか」「総合事務所の職員が次々替わってしまい、親しみを持って話ができない」「中山間地域振興基本条例で何が変わるか」などです。

全体として関心が高かったのは原発事故に関してです。東電福島第1原発から約250キロ、柏崎刈羽原発から20数キロという距離をスライドで示したこともあって、「こんなに近いとは思わなかった」「ヨウ素

剤はどうやったら入手できるのか」などの声が次々と出されました。

地域事業費制度見直しで緊急集会

「村山市長は、合併時に14市町村の代表が合意した『地域事業費制度』を、住民への説明や十分な合意もないまま破棄しようとしている」として「住民自治と合併問題を考える会」（代表、大湊区の佐藤忠治さん）が10日の午後2時から緊急集会を開きます。

場所は 頸城区の希望館。集会では、6月議会の一般質問で地域事業費制度の見直し問題を取り上げた6人の議員を招き、議会での様子を聞きながら、意見交換などを行う予定とのことです。

集会には私も参加します。地域事業費制度見直し問題については、11日の午前10時から開催される市議会総務常任委員会でも質疑が行われますので、多くの人の意見を聞くことができると期待しています。



いま、市内各地でチマキづくりが盛んです。写真は吉川区長沢地内で撮影。もう1時間遅く、この家を訪問すればただけたかも……。笹が実にいい色でした。